

麻疹(はしか)・風しんワクチン予防接種 説明文

麻疹(はしか)・風しんワクチンの接種を実施するにあたって、接種を受けるお子さんの健康状態をよく把握する必要があります。予防接種の前に必ずこの説明文をお読みになり、「麻疹・風しん予防接種予診票」にご記入の上、医師の診察を受けてください。

* 予防接種の効果や副反応などについて理解した上で、お子さんの予防接種についてご判断いただきますようお願いいたします。

1 麻疹(はしか)について

麻疹ウイルスの感染によって起こります。感染力が強く、飛沫・接触だけではなく空気感染もあり、予防接種を受けないと、多くの人がかかり、流行する可能性があります。高熱、せき、鼻汁、眼球結膜の充血、めやに、発疹を主症状とします。最初 3~4 日間は 38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うと、また 39~40℃の高熱と発疹がでます。高熱は 3~4 日で解熱し、次第に発疹も消失します。しばらく色素沈着が残ります。

主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。患者 100 人中、中耳炎は約 7~9 人、肺炎は約 1~6 人に合併します。脳炎は約 1,000 人に 1~2 人の割合で発生がみられます。また、亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という慢性に経過する脳炎は約 10 万例に 1~2 例発生します。はしかは、医療が発達した先進国であっても、かかった人の約 1,000 人に 1人が死亡するととも重症の病気です。

2 風しんについて

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は 2~3 週間です。軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか、眼球結膜の充血、年長児や成人では関節炎の頻度が高く、予後は一般的に良好ですが、血小板減少性紫斑病や脳炎の合併を認めることがあり、まれに溶血性貧血もみられます。平成 30 年~令和元年の風しんの流行で、血小板減少性紫斑病が 21 人、脳炎が 2 人報告されました。大人になってからかかると重症になります。

妊婦が妊娠 20 週頃までにかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる先天性の心臓病、白内障、聴力障害、発育発達遅延などの障がいを持った児が生まれる可能性が非常に高くなります。

3 麻疹(はしか)・風しんワクチンと効果について

麻疹ウイルス及び風しんウイルスを弱毒化してつくったワクチンです。1歳になったらなるべく早く第1期の予防接種を受けるように努めてください。

麻疹ワクチンも風しんワクチンも 1 回の接種で 95%以上の子どもは免疫を得ることができますが、つき損ねた場合の用心と、年数がたつて免疫が下がってくることを防ぐ目的で、2 回の接種(第 2 期接種)が行われるようになりました。

第 2 期の接種は、小学校就学前の 1 年間、幼稚園、保育所等の最年長クラスの児童が対象者となります。

第 1 期、第 2 期において、麻疹・風しん混合(MR)ワクチンが使用されます。麻疹又は風しんのいずれかにかかった者にも、麻疹・風しん混合(MR)ワクチンを使用することが可能とされています。なお、病気の治療、予防などのために人免疫グロブリン製剤の注射を受けたことがあるお子さんについての接種時期については、かかりつけ医と相談してください。

4 接種時期について

	対象年齢	回数
第 1 期	生後 12 か月以上 24 か月未満	1 回
第 2 期	次年度小学校に入学するお子さん (小学校入学1年前(年長)の年度の 4 月 1 日~3 月 31 日までが接種期間)	1 回

5 予防接種を受けることができない方

(1)明らかに発熱(通常 37.5℃以上をいいます)している方

(2)重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方

(3)このワクチンに含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことのある方

「アナフィラキシー」とは、通常接種後約 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のことで、発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状やショック状態になるような、はげしい全身反応のことで、

(4)その他、かかりつけ医師が予防接種を行うことが不適当な状態と判断した場合

6 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

(1)心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方

(2)過去に予防接種で、接種後 2 日以内に発熱・発疹・じんましん等アレルギーを思わせる異常がみられた方

(3)過去にけいれん(ひきつけ)を起こしたことのある方

けいれんの起こった年齢、そのとき熱があったか、熱がなかったか、その後起こっているか、受けるワクチンの種類などで条件が異なります。必ずかかりつけ医と事前に相談しましょう。

(4)過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる方

(5)ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗菌薬、安定剤などが入っているものがあるのでこれらにアレルギーがあるといわれたことのある方

7 予防接種を受けた後の一般的注意事項

(1)予防接種を受けた後 30 分間程度は医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。

(2)接種後、生ワクチンでは 4 週間は副反応の出現に注意しましょう。また、接種局所の異常反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

(3)接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが接種部位をこすることはやめましょう。

(4)接種当日は、激しい運動は避けましょう。

8 副反応について

麻しんワクチン、風しんワクチンの副反応データから、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどの副反応が、まれに生じる可能性もあります。また、麻しんワクチンを接種した場合、発熱に伴う熱性けいれん(約 300 人に 1 人)を来すことがあります。その他、ごくまれに脳炎・脳症(100 万~150 万人に 1 人以下)の報告があります。

医療機関から副反応の疑い例(有害事象)として報告されたうちの重篤症例(報告者が重篤として判断するもの)の発生頻度は、0.0010%です。(平成 25(2013)年 4 月 1 日~令和 7(2025)年 9 月 30 日までの数値。)

9 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因(予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等)によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。

※給付申請の必要性が生じた場合には、診察した医師、江別市保健センターへご相談ください。

お問い合わせ先:江別市保健センター TEL011-385-5252